

#### IV 研究活動

- 1980 『ペルシアの古陶器』 淡交社
- 1980 『ペルシア古美術研究 第2巻』 吉川弘文館
- 1980 「イラン高原出土緑釉六曲把手付坏に関する一考察」『紀要』 80
- 1980 「最近我国に将来されたイスラーム時代初期の陶磁器二点について」『紀要』 81
- 1980 「イラン高原出土の唾壺とその源流について——正倉院宝蔵紺瑠璃壺に関連して——」『正倉院年報』 2号
- 1981 *Ceramics of Ancient Persia*, Weatherhill, New York.
- 1981 「最近我国に将来されたエラムの古代ガラス二点について」『紀要』 87
- 1983 『ペルシアの形象土器』 淡交社

#### 尾上 兼英

- 1967/81 「明代白話小説ノート(1), (2-1)」『紀要』 44, 86
- 1970 「庶民文化の誕生」『世界歴史』 第9巻 岩波書店
- 1975 「中国白話小説史(五代～清)」前野直彬編『中国文学史』 東京大学出版会
- 1978 「東南アジア華人社会における演芸」『紀要』 75
- 1978 「『成化説唱詞話』 試論1」『東洋文化』 58号
- 1980 「東南アジア華人社会の伝統芸能」『紀要』 82
- 1980 「東南アジア華人社会の伝統芸能」『紀要』 83
- 1981 「謝小娥伝その他」伊藤漱平編『中国の古典文学』 東京大学出版会
- 1982 “Puppet theatre and story-telling art in Hong Kong”, K. ONOE ed., *Research on Chinese Traditional Entertainments in Southeast Asia*, 東洋文化研究所
- 1983 「日本華僑社会における芸能の変容」山田信夫編『日本華僑と文

化摩擦』巖南堂

関 寛治

- 1966 『現代東アジア国際環境の誕生』 福村書店
- 1969 『国際体系論の基礎』 東京大学出版会
- 1977 『地球政治学の構想』 日本経済新聞社
- 1981 『国際政治学を学ぶ』（編著） 有斐閣
- 1982 『朝鮮半島と国際関係』（編著） 晃陽書房
- 1982 「日本・ASEAN 関係の現代国際政治における位相」『紀要』 88
- 1982 *Militarization and Development*, UNU, GPID paper.
- 1982 *Evaluation GPID Capabilities to Solve Global Problematique*, UNU, GPID paper.
- 1983 *Japan's Role in the Demilitarization of Northeast Asia*, UNU, SCA paper.
- 1984 *The Need to Develop Alternative Theories of International Relations in Light of Japan's Globalization*, Paper presented at ISA 26th Convention.

山崎 利男

- 1969 『インド史における土地制度と権力構造』（共編著） 東京大学出版会
- 1974/75 「ラームモーハン・ローイの司法制度論」『紀要』 64, 66
- 1976 「インドの婚姻と離婚の法」『家族：政策と法律』 6 東京大学出版会
- 1978 「現代インドの社会と宗教」柳川啓三編『現代社会と宗教』 東洋哲学研究所
- 1979 「インドの銅板文書の形式とそのはじまりについて」『紀要』 73



#### IV 研究活動

- 1979 「ポロックとインド法」『内田力蔵先生古稀記念 現代イギリス法』成文堂
- 1980 「ポロックのインド法論」『山本達郎博士古稀記念 東南アジア・インドの社会と文化』(下) 山川出版社
- 1982 「4-12 世紀におけるバラモンの村落享有の確認とその消滅」『紀要』86
- 1982 「インドにおける中世世界の成立」『中世史講座』1 学生社
- 1982 “Some Aspects of Land-Sale Inscriptions in Fifth and Sixth Century Bengal”, *Acta Asiatica*, 43.

#### 松井 透

- 1968 「近代西欧のアジア観と植民地支配論」『思想』530号
- 1969 『インド史における土地制度と権力構造』(共編著) 東京大学出版会
- 1969 *The Indian Economy in the Nineteenth Century: A Symposium*, coauthored with M.D. Morris et al. Indian Economic and Social History Association, Delhi.
- 1972 『インド土地制度史研究』(編著) 東京大学出版会
- 1973 「植民地支配下のインド農業——メーラト県の場合——」山田秀雄編『植民地経済史の諸問題』アジア経済研究所
- 1977 『北インド農産物価格の史的研究(上)・(下)』東洋文化研究所
- 1978 *A Concordance of the Names in the Cola Inscriptions*, coauthored with N. Karashima and Y. Subbarayalu, Sarvodaya Ilakkiya Pannai, Madurai.
- 1980 「19 世紀北インド農業一考」『山本達郎博士古稀記念 東南アジア・インドの社会と文化』(下) 山川出版社
- 1982 「英領期ベンガル農業統計研究」『紀要』88

1982 『HISTAPS——史的データの処理・分析のために——』 東洋文化研究所

鎌田 茂雄

- 1965 『中国華嚴思想史の研究』 東洋文化研究所  
1968 『中国仏教思想史研究』 春秋社  
1971 『禅源諸詮集都序』 筑摩書房  
1971 『鎌倉旧仏教』 (共著) 岩波書店  
1975 『宗密教学の思想史的研究』 東洋文化研究所  
1978 『中国仏教史』 (岩波全書) 岩波書店  
1980 『朝鮮仏教の寺と歴史』 大法輪閣  
1982 『中国仏教史 第一巻 初伝期の仏教』 東京大学出版会  
1983 『中国仏教史 第二巻 受容期の仏教』 東京大学出版会  
1983 『華嚴学研究資料集成』 東洋文化研究所  
1984 『禅典籍内華嚴資料集成』 東洋文化研究所

池田 温

- 1965 「唐朝氏族志の一考察」『北海道大学文学部紀要』 13-2  
1965 「8世紀中葉における敦煌のソグド人聚落」『ユーラシア文化研究』 1号  
1968 「中国古代物価の一考察」『史学雑誌』 77-1, 2  
1971 「盛唐之集賢院」『北海道大学文学部紀要』 19-2  
1973 “T’ang Household Registers and Related Documents”, A. Wright & D. C. Twitchett ed., *Perspectives on the T’ang*, Yale University Press, New Haven.  
1979 『中国古代籍帳研究 概観・録文』 東洋文化研究所  
1980 『敦煌の社会』 (編) 〈講座敦煌 3〉 大東出版社



#### IV 研 究 活 動

- 1981 『大唐開元禮附大唐郊祀録』(編)(第2刷) 汲古書院
- 1981 「中国歴代墓券略考」『紀要』86
- 1981 「古代日本摂取中國典籍問題」『中央研究院國際漢學會議論文集  
歴史考古組』上冊 台北

#### 山田 三郎

- 1971 『韓国工業化の課題』(編著) アジア経済研究所
- 1974 「アジア農業の生産性と生産構造——マクロ計量的国際比較分析——」『紀要』63
- 1975 *A Comparative Analysis of Asian Agricultural Productivities and Growth Patterns*, Asian Productivity Organization, Tokyo.
- 1975 *A Century of Agricultural Development in Japan, Its Relevance to Asian Development*, coauthored with Y. Hayami et al., University of Minnesota Press, Minneapolis, and University of Tokyo Press, Tokyo.
- 1980 “International Comparisons of Productivity in Agriculture” (coauthored with Vernon W. Ruttan), J. Kendrick and B. Vaccara eds., *New Developments in Productivity Measurement and Analysis*, Studies in Income and Wealth, Vol. 44, University of Chicago Press for the National Bureau of Economic Research, Chicago.
- 1981 「経済発展における普遍性と地域特性——アジア諸国経済発展の比較, 1960-78年——」『紀要』87
- 1982 『食糧需給の将来と農業政策』(アジア開発の経験と展望Ⅱ)(編著) アジア経済研究所
- 1982 “The Problem of Food Security in Japan”, A. H. Chisholm &

R. Tyers, eds., *Food Security : Theory, Policy and Perspectives from Asia and the Pacific Rim*, Lexington Books, Lexington, Massachusetts, Toronto.

- 1982 “The Secular Trends in Input-Output Relations of Agricultural Production in Japan, 1878-1978”, Chi-ming Hou & Tzong-shian Yu eds., *Agricultural Development in China, Japan and Korea*, Academia Sinica, Taipei.
- 1982 *Labour Absorption and Growth in Agriculture, China and Japan*, coauthored with S. Ishikawa & S. Hirashima, International Labour Organization, Asian Employment Programme, Bangkok.

松丸 道雄

- 1959 『甲骨文字』 奎星会出版部
- 1959/80 「日本散見甲骨文字蒐彙」『甲骨学』7~12号
- 1963 「殷墟卜辞中の田獵地について」『紀要』31
- 1970 「殷周国家の構造」『世界歴史』第4巻 岩波書店
- 1973 *Oracle Bones : Essays on the Sources for Chinese History*, Australian National University Press, Canberra.
- 1976 『新編金石学録』(編) 汲古書院
- 1980 『西周青銅器とその国家』(編) 東京大学出版会
- 1980 「甲骨文偽作問題新探」『池田末利博士古稀記念東洋学論集』同事業会
- 1982 『東京大学東洋文化研究所蔵・中国青銅器資料分類目録』第1冊 殷・西周篇 (持井康孝氏と共編) 東洋文化研究所
- 1983 『東京大学東洋文化研究所蔵甲骨文字 図版篇』東洋文化研究所



IV 研 究 活 動

田 仲 一 成

- 1970 「南宋時代の福建地方劇について」『日本中国学会報』22号
- 1972 “Development of Chinese Local Plays in the 17th and 18th Centuries”, *Acta Asiatica*, No. 23.
- 1973/77 「十五・六世紀を中心とする江南地方劇の変質について」『紀要』60, 63, 65, 71, 72
- 1977 “A Study on P'i-p'a chi in Hui-chou Drama—Formation of Local Plays in Ming and Ch'ing Eras and Hsin-an Merchants—” *Acta Asiatica*, No. 32.
- 1981 『中国祭祀演劇研究』東洋文化研究所
- 1981 「清代の会館演劇について」『紀要』86

戸 田 禎 佑

- 1973 『牧谿・玉澗』講談社
- 1975 『梁楷・因陀羅』（川上涇・海老根聡郎両氏と共著）講談社
- 1977/83 『海外・日本所在中国絵画目録』（共編）全5冊 東洋文化研究所  
東洋学文献センター
- 1981 「二祖調心図再考」『鈴木敬先生還暦記念中国絵画史論集』吉川弘文館
- 1981 「劉松年の周辺」『紀要』86
- 1982 「模写性について」『ミュージアム』380号
- 1983 『中国の花鳥画と日本』（小川裕充氏と共著）学習研究社

友 杉 孝

- 1976 「タイにおける土地所有の展開過程」斎藤仁編『アジア土地政策論序説』アジア経済研究所
- 1976 「タイの灌漑農業」福田仁志編『アジアの灌漑農業——その歴史

と論理——』アジア経済研究所

- 1979 『経済蓄積の形態と社会変化——梓川水系の事例——』国際連合大学
- 1980 *A Structural Analysis of Thai Economic History: Case Study of a Northern Chao Phraya Delta Village*, Institute of Developing Economies, Tokyo.
- 1980 「諏訪上社御柱祭りノート——歴史の隠喩——」『東南アジア研究』18-2
- 1980 『溜池と社会形成——文化としての溜池——』国際連合大学
- 1981 “A Note on the Rural Community and Education in Thailand”, *East Asian Cultural Studies*, Vol. XX, Nos. 1-4.
- 1982 『土地の商品化と貨幣の記号化——佐賀平坦部農村の社会史を事例として』国際連合大学
- 1983 「タイ農村社会における市場とその多義性——比較経済体制論に向けて——」『東洋文化』63号
- 1983 『新開地における社会形成と農協——北海道深川の事例——』国際連合大学

松谷 敏雄

- 1969 「初期農耕村落の研究」『紀要』47
- 1972 「ピゼとチネ」『紀要』58
- 1973 *Marv-Dasht III* (編) 東洋文化研究所
- 1974 「西アジアの特異な石器〈サイド・ブロー=ブレイド・フレイク〉」『東洋文化』54号
- 1975 *Telul eth-Thalathat III* (編) 東洋文化研究所
- 1977 “Excavations at Telul eth-Thalathat, 1976” *Sumer*, XXXII, No. 1.



#### IV 研究活動

- 1980 *Halimehjan I* (編) 東洋文化研究所  
1981 *Telul eth-Thalathat IV* (編) 東洋文化研究所  
1982 *Halimehjan II* (編) 東洋文化研究所  
1982 「再び〈サイド・ブロー=ブレイド・フレイク〉について」『紀要』88

#### 蜂屋 邦夫

- 1966 「中国的心性について——主として語義論的観点から——」『紀要 比較文化研究』6 輯  
1968 「莊子逍遙遊篇をめぐる郭象と支遁の解釈——併せて支遁の仏教理解について——」『紀要 比較文化研究』8 輯  
1973 「范縝『神滅論』の思想について」『紀要』61  
1974 「中国における精神革命」伊東俊太郎編著『人類文化史2 都市と古代文明の成立』講談社  
1977 「孫綽の生涯と思想」『東洋文化』57号  
1979 「戴逵について——その芸術・学問・信仰——」『紀要』77  
1980 「孫盛の歴史評と老子批判」『紀要』81  
1981 「言尽意論と言不尽意論」『紀要』86  
1982 「北周・道安『二教論』注釈」『東洋文化』62号  
1983 「太平経における言辞文書——共・集・通の思想——」『紀要』92  
1984 『儀礼士冠疏』(編) 東洋文化研究所

#### 猪口 孝

- 1970 『国際関係の数量分析：北京・平壤・モスクワ，1961年—1966年』巖南堂書店  
1972 “Measuring Friendship and Hostility among Communist Powers: Unobtrusive Measures of Esoteric Communications”,

*Social Science Research*, Vol. 1, No. 1.

- 1978 『外交態様の比較研究：中国・英国・日本』 巖南堂書店
- 1978 “The Politics of Decrementalism : The Soviet-Japanese Salmon Catch Negotiations, 1955~1977”, coauthored with N. Miyatake, *Behavioral Science*, Vol. 23, No. 6.
- 1979 “Negotiation as Quasi-Budgeting : The Salmon Catch Negotiations between Two World Fishery Powers”, coauthored with N. Miyatake, *International Organization*, Vol. 33, No. 2.
- 1980 “Economic Conditions and Mass Support in Japan, 1960~1976”, Paul Whiteley ed., *Models of Political Economy*, Sage, London.
- 1981 “Explaining and Predicting Japanese General Elections 1960~1980”, *Journal of Japanese Studies*, Vol. 7, No. 2.
- 1981 “Political Science in Japan”, W. G. Andrews ed., *International Handbook of Political Science*, Greenwood Press, Westport, Connecticut.
- 1982 『国際政治経済の構図』 有斐閣
- 1983 『現代日本政治経済の構図』 東洋経済新報社

#### 原 洋之介

- 1976 「ジャワ米穀経済への高収量品種の転移・普及・定着」『紀要』69
- 1978 「過渡期経済成長の類型化」『紀要』74
- 1981 「経済成長の加速度化：マレーシアと韓国の比較」『紀要』85
- 1981 「二者関係経済における労働市場の構造——タイ国工業化論序説——」『紀要』87
- 1981 『マレーシアの労働事情——新しい経済政策と労働社会の実態』  
日本労働協会



#### IV 研究活動

- 1981 “Institutional Changes in a Central Thai Village”, *The Developing Economies*, Vol. 19, No. 4.
- 1982 「タイ農村における労働雇用契約の形態」『紀要』90
- 1983 「東南アジア農村社会論」『東洋文化』63号
- 1984 「経済ナショナリズム論」『東洋文化』64号
- 1984 “Relevance of Modern Economic Theory to Asian Development”, *Social Sciences and Asia*, 東洋文化研究所

#### 加納 啓良

- 1977 *Land Tenure System and the Desa Community in Nineteenth Century Java*, I. D. E. Special Paper No. 5, Institute of Developing Economies.
- 1979 『ハグララン——東部ジャワ農村の富と貧困』アジア経済研究所
- 1979 「ジャワ農村経済史研究の視座変換——“インボリユーション・テーゼ”の批判的検討——」『アジア経済』20-2
- 1980 「農業問題の中部ジャワ的構造——ジョクジャカルタ特別区の事例に即して——」『アジア経済』21-4, 5
- 1980 “The Economic History of Javanese Rural Society: A Reinterpretation”, *The Developing Economies*, Vol. 18, No. 1.
- 1981 『サワハン——「開発」体制下の中部ジャワ農村——』アジア経済研究所
- 1981 「ジャワにおける水稻生産の地域構造——1920年と1977年の生産統計比較」『紀要』87
- 1981 「ダゲン——イスラーム・カルヤワンの村の社会経済構造」『経済学論集』47-3
- 1982 「インドネシアにおける“土地なし”農村世帯の存在形態」滝川勉編『東南アジア農村の低所得階層』アジア経済研究所

- 1983 「『二重経済』と『農業インボリューション』を超えて——『農民の自給生産』再考——」『東洋文化』63号

#### 濱下 武志

- 1978 「近代中国における貿易金融の一考察——19世紀中葉の銀価騰貴をめぐって——」『東洋学報』78-3/4 合併号
- 1979 「資本主義 = 植民地体制の形成とアジア——1850年代のイギリス銀行資本の中国進出過程——」『講座中国近現代史』第一巻 東京大学出版会
- 1980 『中国近代経済史関係解題つき文献目録——海関資料を中心として——』（一橋大学細谷新治研究室）
- 1982 「19世紀末における銀価変動と上海金融市場——中国通商銀行の初期活動に関連して——」『一橋論叢』87-4
- 1983 “A History of the Japanese Silver Yen and the Hongkong and Shanghai Banking Corporation, 1871-1913”, Frank H. H. King ed., *Eastern Banking*, London.
- 1983 「近代アジア市場とイギリス」『史海』30号

#### 柳沢 悠

- 1971 「十八世紀末南インドにおける土地保有関係」松井透編『インド土地制度史研究』東京大学出版会
- 1971/72 「インド在来織物業の再編成とその諸形態（Ⅰ）（Ⅱ）」『アジア経済』12-12; 13-2
- 1975 「インドにおける賃労働の存在形態——『労働調査委員会報告』にみる——」山口博一編『インドの経済政策と諸階層』アジア経済研究所
- 1976 「南インドにおける地主 = 小作関係の展開」辛島昇編『インド史



#### IV 研究活動

- における村落共同体の研究』東京大学出版会
- 1978 「旧マドラス州タンジョール県における『農業労働者』と小作人」『南アジア農村社会の研究』No. 1 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- 1979 「19世紀末南インドの農業生産と農業労働者」『横浜市立大学論叢』人文科学系列 30-2/3 合併号
- 1979 「南インドにおける対『アウト・カースト』経済政策の展開」『経済と貿易』（横浜市立大学経済研究所）127号
- 1980 「第一次日印会商をめぐる英印関係」『経済と貿易』（横浜市立大学経済研究所）129号
- 1981 『南インド・カーヴェリ河流域の農村社会の史的変容 (*Studies in Socio-cultural Change in Rural Villages in Tiruchirapalli District, Tamilnadu, India, No. 3*)』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- 1984 *Socio-economic Changes in a Village in the Paddy Cultivating Area in South India, Socio-cultural Change in Villages in Tiruchirapalli District, Tamilnadu, India, Part II. No. 2, Institute of the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies.*

#### 鈴木 董

- 1978 「オスマン・トルコ社会思想の一側面——有機体的社会観の展開——」『イスラム世界』14号
- 1981 「中東イスラム世界に於ける国際体系の伝統と西洋の衝撃」『国際政治』67号
- 1983 「1982年の歴史学界——回顧と展望——西アジア・北アフリカ・イスラム時代——」『史学雑誌』92-5

- 1983 「現代中東における共存様式の崩壊と国際紛争——キプロス紛争を中心として——」『国際政治』73号
- 1983 「軍事・行政制度——オスマン帝国の場合——」川床睦夫編『シンポジウム「アラブとアジャム（非アラブ）」』中近東文化センター

### 宮嶋 博史

- 1974 「朝鮮甲午改革以後の商業的農業」『史林』57-6
- 1975 「『土地調査事業』の歴史的前提条件の形成」『朝鮮史研究会論文集』12集
- 1976 「韓国における『民族史学』について」『歴史学研究』439号
- 1977 「李朝後期農書の研究」『人文学報』（京都大学人文科学研究所）43号
- 1978 「朝鮮『土地調査事業』研究序説」『アジア経済』19-9
- 1980 「朝鮮農業史上における15世紀」『朝鮮史叢』3号
- 1981 「李朝後期における朝鮮農法の発展」『朝鮮史研究会論文集』18集
- 1982 「植民地下朝鮮人大地主の存在形態に関する試論」飯沼二郎・姜在彦編『植民地期朝鮮の社会と抵抗』未来社
- 1983 「李朝後期の農業水利」『東洋史研究』41-4
- 1984 「朝鮮史研究と所有論」『人文学報』（東京都立大学人文学部）167号

### 加藤 博

- 1976 「中世エジプト貨幣政策」『一橋論叢』76-6
- 1977 「貨幣史からみた後期エジプト社会」『社会経済史学』43-1
- 1980 「19世紀後半のエジプト土地・税制度」『オリエント』23-1
- 1980 「19世紀エジプト土地制度史研究——学界事情と史料紹介——」



#### IV 研究活動

『一橋論叢』86-6

- 1980 “Egyptian Village Community under Muhammad ‘Ali’s Rule—An Annotation of ‘Qanun al-Filāha’—”, *Orient*, Vol. XVI.
- 1981 「カフル・シュブラフール村の村方騒動——19世紀エジプトにおける私的土地所有権の確立とイズバ農民——」『紀要』87
- 1982 「19世紀中葉におけるエジプト灌漑行政」『一橋論叢』88-5
- 1982 「エジプトにおける私的土地所有権の確立」『紀要』91
- 1983 「近代エジプト農村社会研究のためのノート」『東洋文化』63号
- 1984 「1863年公布二勅令にみる19世紀中葉エジプト農民の土地喪失過程」一橋大学・地中海世界研究会10周年記念論文集『地中海地域における社会経済的空間組織の形成に関する比較史的研究』

#### 清水 展

- 1981 「Mt. Pinatubo 南西麓ネグリート社会における結婚と婚資——集団構成の変容をめぐる——」『民族学研究』46-1
- 1981 「Mt. Pinatubo ネグリオートの経済生活——定着犁耕農業プロジェクトの成否とその影響を中心として——」『紀要』87
- 1981 「フィリピンの山の民——ネグリートへの圧迫と援助——」『季刊民族学』18号
- 1982 “Grammatical Analysis of Kakilingan Sambal, the Language of the Southwestern Pinatubo Negritos,” (Yamashita Michiko 氏との共著)『東京大学人文学科紀要』76輯
- 1983 「変容するネグリート社会の苦悩——ある若者のアモック事件をめぐる——」『東洋文化』63号
- 1983 「精霊との交流——ピナトゥボ・ネグリオートの治病セアンス——」『吉田禎吾教授還暦記念論文集 儀礼と象徴』九州大学出版会
- 1984 「採集狩猟民社会の変貌——歴史のなかのピナトゥボ・ネグリー

ト」大林太良編『民族の世界史6 東南アジアの民族と歴史』山川出版社

- 1984 “Communicating with Spirits: A Study of *Manganito* Seance among the Southwestern Pinatubo Negritos”, *East Asian Cultural Studies*, Vol. 22.
- 1984 “Filipino Children in Family and Society : Growing up in the Many-People Environment,” Noboru Kobayashi and T. B. Brazelton eds., *The Growing Child in Family and Society: An Interdisciplinary Study in Parent-Child Bonding*, University of Tokyo Press.

久保 亨

- 1978 「1920年代末中国の黄色工会——“上海郵務工会”の事例分析——」『中国労働運動史研究』2号
- 1979 「国民革命期の武漢労働運動に関する覚書——店員・職人層の運動と中小ブルジョアジー——」『中国労働運動史研究』6/7 合併号
- 1980 「南京政府の関税政策とその歴史的意義」『土地制度史学』22-2
- 1981 「幣制改革以降の中国経済」『中国の幣制改革と国際関係』東京大学出版会
- 1981 「1930年代中国の関税政策と資本家階級」『社会経済史学』47-1
- 1981 「日本の侵略前夜の東北経済——東北市場における中国品の動向を中心に——」『歴史評論』377号
- 1982 「上海労働統計の紹介と簡単な検討」『中国労働運動史研究』10号
- 1982 「戦間期中国経済史の研究視角をめぐって——“半植民地半封建”概念の再検討——」『歴史学研究』506号
- 1983 「中国国民政府による関税政策決定過程の分析, 1932-1934年」『紀要』92



#### IV 研究活動

- 1983 「国民政府の財政と関税収入, 1928-1937」『中国史における社会と民衆』汲古書院

#### 福井 清一

- 1980 「互惠的刈分小作労働慣行へのゲーム論的接近」『農業経済研究』51-4
- 1980 「伝統的労働慣行の変容に関する均衡的分析」『アジア経済』21-6
- 1980 「農村改革・二人関係・刈分小作——中部ルソン一米作農村の事例より——」『農林業問題研究』16-3
- 1982 「刈分小作制度の諸理論：東南アジアにおける『互酬的』刈分小作制度の経済理論構築のために」『紀要』90
- 1983 「社会的相互連関と刈分小作制度：依頼人—代理人関係の理論の視点から」『農業経済研究』55-2
- 1983 「土地用役市場における親類間取引と刈分小作制度：主体均衡論の視点から」『農林業問題研究』19-1
- 1983 「東南アジアにおける互酬的刈分小作制度の経済的研究」(博士論文 京都大学)
- 1984 『互酬的刈分小作制度の経済分析』大明堂

#### 上田 信

- 1981 「明末清初, 江南の都市の『無頼』をめぐる社会関係——打行と脚夫——」『史学雑誌』90-11
- 1983 「地域の履歴——浙江省奉化县忠義郷」『社会経済史学』49-2
- 1984 「地域と宗族——浙江省山間部」『紀要』94

#### 川崎 有三

- 1978 「東南アジアにおける中国人コミュニティの比較研究」(修士論文)

谷 豊信

- 1979 「慶尚南道の金海式土器について——年代論を中心にして——」  
『考古学研究ノート』東京大学文学部考古学研究室
- 1983 「楽浪土城址の発掘とその遺構——楽浪土城研究 その1——」  
『東京大学文学部考古学研究室紀要』2号
- 1984 「西晋以前の中国の造瓦技法について」『考古学雑誌』69-3

竹中 千春

- 1983 「植民地国家の体制と危機——インド・ナショナリズムの位相,  
1916-1935——」(法学部助手論文)



## H 図書・資料

本研究所は、アジア諸地域に関する図書を約 34 万冊、雑誌を約 4,200 種所蔵している。とくに漢籍は今日収集不可能な貴重なものが多く、日本で有数のコレクションである。その他の分野の図書・雑誌も鋭意収集に努め、近年着実に増加している。それらは研究者に公開され、毎年多数の閲覧者があったが、図書室と書庫の移動のため、昭和 58 年 8 月から書庫内の整備が完了するまで、閲覧事務を停止している。

本研究所蔵の図書・雑誌数は、昭和 58 年 4 月 1 日現在、次のとおりである。(但し整理中のものは含まない)

和・中・朝文図書	293,138 冊	
欧文図書	46,696 冊	計 339,834 冊
和文雑誌	1,921 種	
朝文雑誌	286 種	
中文雑誌	1,304 種	
欧文雑誌	741 種	計 4,252 種

このほか、マイクロフィルム 1,908 リール、マイクロ・フィッシュ 約 4 万シートを所蔵する。

### 主要所蔵図書

〔大木文庫〕 本研究所創設の当初に、大木幹一氏より中国法制関係書総数 3,168 部、45,452 冊の寄贈を受けた。法律のみならず、政治、外交、経済、産業など研究上の貴重書が多く、明代以後の時期の研究にはとくに欠くことのできない蒐集資料である。いわゆる官箴や公牘の類の数百部は、本文庫のひとつの柱梁をなしている。その目録は昭和 34 年に旧蔵者の稿本にもとづき編纂、刊行された。

〔帝国学士院東亜諸民族調査室旧蔵書〕 昭和 19 年帝国学士院東亜諸民族調査室の解散にともない、その蔵書の和漢洋書・雑誌・資料等 2,000 冊が移管された。このなかには西欧におけるアジア諸民族研究の主要な文献が集められている。

〔東方文化学院旧図書〕 東方文化学院東京研究所は、昭和 4 年に東方文化に関する研究機関として創設され、外務省の所管に属したが、昭和 23 年廃せられた。昭和 42 年 3 月、その旧蔵書と漢洋あわせて 103,587 冊が本研究所に移管された。

〔松本忠雄氏旧蔵書〕 昭和 25 年度科学研究費交付金により、松本忠雄氏旧蔵の和漢洋書、雑誌など 3,000 冊を購入した。これはとくに近代中国研究資料として重要なものを多く含んでいる。

〔長沢規矩也氏旧蔵書〕 昭和 26・28 両年度科学研究費交付金により、長沢規矩也氏旧蔵の約 3,000 冊を購入した。その内容は明清時代の戯曲小説類で、貴重書も少なくなく、中国文学研究上重要な資料である。昭和 36 年 11 月本研究所創立 20 年に当り、同氏から約 150 冊の補充を得るとともに『雙紅堂文庫分類目録』を刊行した。

〔清野謙次氏旧蔵書〕 昭和 27・28 両年度科学研究費交付金により、清野謙次氏旧蔵洋書 750 冊を購入した。人類学・考古学関係のものを根幹とする貴重なコレクションであり、昭和 53 年 3 月に分類目録を刊行した。

〔矢吹慶輝氏旧蔵書〕 昭和 27 年度科学研究費交付金により、矢吹慶輝氏旧蔵洋書約 360 冊を購入した。英・仏・独のマニ教関係の文献がその中心をなし、他に仏教遺跡の発掘報告書も含まれている。

〔下中文庫〕 下中弥三郎氏より、昭和 28 年 1 月から 32 年 6 月に至るまで、戦後出版の中国書 4,500 冊、中国雑誌 10 種及び戦後出版の東洋関係洋書 130 冊を受贈した。とくに中国書は当時入手できた書の主要なものをほとんど網羅し、戦後の中国研究に関する重要な資料である。

〔東京銀行調査部旧蔵資料〕 昭和 34・35 両年度にわたり、東京銀行調査



#### IV 研究活動

部所蔵の経済関係書を主とする和洋書・資料類約 18,000 冊の寄贈を受けた。

〔仁井田陸氏旧蔵書〕 本研究所名誉教授仁井田陸氏の逝去（昭 41・6・22）後、所蔵の中国書 5,000 冊、洋書 120 冊、和書 2,200 冊、清代公私文書類 900 余点、50 基の碑文の拓本を受入れた。これらの図書資料は、大木文庫とともに旧中国の社会研究に極めて重要なものである。

〔倉石武四郎氏旧蔵書〕 昭和 50 年度に本学名誉教授倉石武四郎氏の漢籍を主とする蔵書を収蔵することとなり、昭和 56 年度までにその重要な部分、漢籍約 4,300 点などを購入した。

〔江上波夫氏旧蔵書〕 昭和 56・57 両年度にわたり、本研究所名誉教授江上波夫氏の蔵書のうち、歴史学、民族学、考古学を中心とした洋書（露文を含む）の一部を購入した。今後も引き続き購入を予定している。

以上の各コレクションのほか、昭和 33 年度から 3 カ年にわたって文部省科学研究費により、総合研究「アジア地域の社会・経済構造」の一環として、その資料（主として洋書）1,800 冊を購入し、さらに昭和 36 年度から 40 年度まで機関研究および特定研究「アジア社会の近代化と文化の変動」において、継続して資料の蒐集に努め、総数 4,771 冊に達した。

#### 主要収蔵資料

〔殷代甲骨〕 本研究所蔵甲骨は、次の 3 部分から成る。第 1 は、故河井仙郎氏旧蔵の 1,708 片で、これは昭和 54 年に現蔵者井上富美子氏より寄贈された。第 2 は故田中慶太郎氏旧蔵の 393 片で、これは昭和 54 年に購入した。第 3 は旧蔵者三浦清吾氏より寄贈された 2 片である。合計 2,103 片に達し、京都大学人文科学研究所に次ぐ、わが国有数の蒐集である。これらは、整理・綴合の上、松丸道雄『東京大学東洋文化研究所蔵甲骨文字 図版篇』（東洋文化研究所報告 1983）として刊行された。考釈篇は続刊の予定である。

〔中国歴代古銭・錢范〕 旧東方文化学院の蒐集品で、殷代の貝貨、戦国時代の布銭・刀銭・郢爰からはじまり、歴代の代表的貨幣を収蔵する。約 1,250



点の古銭と、10 点余の銭の范模を含んでいる。現在、整理中である。

〔中国考古資料〕 上記の殷墟出土甲骨片、古銭以外に、瓦当約 110 点があり、また鏡、才、戟、鏟など青銅器、玉器、土器、磚、磚製買地券、壁面片、俑、仏像、衣服、室内装飾品、土俗品がある。その大部分は旧東方文化学院が購入し、本研究所に移管されたものである。

〔中国絵画資料（原版・焼付写真・カラースライド等）〕 米国、カナダ、欧州諸国、東南アジア諸国の美術館、個人蒐集家が所蔵する中国絵画および日本に現存している中国絵画に関するものが主体となっており、その他に米国ミシガン大学アーカイヴより購入した中国絵画の焼付写真、東京国立文化財研究所原版からの焼付写真等があつて、現在、中国絵画に関する写真資料の蒐集としては世界有数の質量を備えている。これらの資料については、「東洋学文献センター叢刊」として 5 冊の目録が昭和 52～58 年に刊行され、また図録は『中国絵画総合図録』（5 巻）として東京大学出版会より昭和 57～58 年に刊行された。

〔中国清代・民国期の文書資料〕 17・18 世紀より 20 世紀に及ぶ、北京をはじめ嘉興、武進、蘇州、通州、鳳山、宝応などにおける土地文書を中心とし、その他公私文書類約千数百点を収蔵している。仁井田陞名誉教授旧蔵遺贈分や旧東亜研究所収集文書等を含む。現在東アジア部門の歴史・経済・政治関係者が所外の研究者と協力して整理中であり、その一部分は、昭和 58 年 10 月に『東洋文化研究所所蔵中国土地文書目録・解説（上）』（東洋学文献センター叢刊）として刊行され、続編は編集中である。

〔内蒙古出土学術資料〕 本研究所名誉教授江上波夫氏が戦前に内蒙古で発掘・採集された資料約一万点が昭和 58 年度に寄贈された。これらは主として土器片・陶器片などであり、今日では入手しがたい貴重な資料である。これらの資料の一部は氏のいくつかの論文に掲載されているが、他の圧倒的多数は未発表のものであつて、将来の公刊が望まれる。

〔中世インド・イスラム史跡調査関係資料〕 デリーおよびインド各地に現



#### IV 研究活動

存するいわゆるサルタナット時代のムスリム遺跡に関する資料で、各種サイズの写真、実測図などが主なものである。これらの資料は昭和 34~37 年度に「東京大学インド史跡調査団」が実施した 2 回にわたる現地調査の成果の一部で、とくにニューデリーとその周辺地域に現存する建造物の資料は、今日消滅してしまったものが多く、諸外国に見られない貴重な資料を含んでいる。

〔西アジア考古資料〕 人類文明の起源、東アジアおよび日本古代文明の源流としての古代イラン文明の研究を目的として、昭和 31 年以来、東京大学イラク・イラン遺跡調査団がイラク・イラン両国における遺跡 14 箇所の発掘・調査の結果収集したものである。その数は数万点に達し、これらはここ 10 年来各国が遺物の分与、流出を厳禁している今日では甚だ貴重な資料である。特にその大部分は発掘品で、考古学上第一級資料である。内訳は、

- (1) 石器類。旧石器時代から新石器時代に及ぶ各種の石器、特に半月形石刃や梯形石刃が数千点に達している。
- (2) 土器類。数万点の多種多様の有文土器片と完形品は、新石器時代の文様研究の上ばかりではなく、当時の生活や宗教を考える上で重要な資料である。また、青銅器時代末期からパルティア時代の遺跡デーラマンからの灰黒土色や赤褐色土器の完成品を多数所蔵し、そのなかには中国の黒陶と類似するものもあり、学界の注目を受けている。
- (3) 骨角器。数は少いが、錐、針、篋等がある。
- (4) 銅製品。主として前記のデーラマンから出土した数十本の銅剣、銅鏃、銅矛などの利器の外に、鏡、轡、皿、鉢、釧、指輪、安全ピン、胸当、針、髪飾のピン、動物像などがある。
- (5) 鉄製品。デーラマンの古墓から出土した鉄剣、鉄刀子、鉄矛が多数ある。
- (6) 金銀製品。金製帯、金製装身具（ペンダント・首飾用の玉類）などがある。

- (7) ガラス製品。ガラス瓶，ガラス玉等。
- (8) 玉類。瑪瑙製玉，トルコ玉など，石質の種類は少ないが，数は多い。
- (9) 建造物類。ドウラ・ユーロボスの騎馬人物のストゥッコ，同じく壁画断片，パルミラの建築装飾断片，ペルセポリスなどの建築装飾品断片などがある。
- (10) その他。粘土板文書，土製釘，印章類，形象土器，イスラム陶器など多数所蔵している。



## V 東洋学文献センター

本文献センターは、東洋学に関する文献・情報を収集し、国内外の研究者に対し、各種のドキュメンテーション・サービスを行なうことにより、アジア研究の格段の発展を期するものとして、昭和 41 年度に本研究所に設置された。発足以来、以下の各項の諸事業にとりくんできた。

### 1. 基本資料の収集

昭和 41 年度から 3 ヶ年計画で、近・現代中国、朝鮮刊行物等若干の資料収集と整理を進め、一応所期の目的を達成したのち、引き続き、次の三種類の文献につき、その収集に努めている。

- (1) 中国・朝鮮の近・現代文献、特に逐次刊行物
- (2) 旧中国の政治・法律文献
- (3) 旧中国の戯曲・小説文献

昭和 56 年度からは、近現代中国資料複製整備費（6 ヶ年計画）により、新聞・雑誌のリプリント類を中心に購入整備をすすめつつある。

### 2. 『東洋文化研究所漢籍分類目録』の編纂、刊行

昭和 42 年以来、本研究所漢籍分類目録の編纂事業を推進し、昭和 47 年度に『本文篇』（A4 版、1,174 頁）、次いで昭和 49 年度に『索引篇』（A4 版、書名索引 352 頁、人名索引 446 頁、検字表 39 頁、計 837 頁）を刊行した。

本目録は一研究所の蔵書目録たるにとどまらず、古籍・新書を共に含む中国文献のコレクション分類目録として利用価値がたかく需要が多いので、昭和56年に誤植・誤記を修正して合冊縮印版を作成して汲古書院から刊行した。内外でひろく活用されている。

### 3. 『東洋学文献センター叢刊』の編纂、刊行

東洋学研究者のための書誌、資料等のドキュメンテーション活動として、昭和42年度以来、本叢刊を編纂、刊行し、昭和58年度までに、第42輯(他にB5版の別輯9点)に達した。

- 第1輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録(昭和41年度) 1968
- 第2輯 清代地方劇資料集(一) 1968
- 第3輯 清代地方劇資料集(二) 1968
- 第4輯 周揚著訳論文・周揚批判文献目録 1969
- 第5輯 郁達夫資料 1969
- 第6輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録(昭和42・43年度) 1970
- 第7輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇(上) 1970
- 第8輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇(中) 1970
- 第9輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇(下) 1970
- 第10輯 李大釗文献目録 1970
- 第11輯 明刊元雜劇西廂記目録 1970
- 第12輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇・編著者名索引 1970
- 第13輯 魯迅全集注釈索引 1971
- 第14輯 1930年代中国文芸雑誌(一) 1971
- 第15輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事編(I) 1972
- 第16輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇(II) 1972



V 東洋学文献センター

- 第 17 輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇 (Ⅲ) 1972
- 第 18 輯 郁達夫資料補篇 (上) 1973
- 第 19 輯 切韻残卷諸本補正 1973
- 第 20 輯 目録学 1973
- 第 21 輯 花間集索引 1974
- 第 22 輯 郁達夫資料補篇 (下) 1974
- 第 23 輯 仁井田陸博士輯北京工商ギルド資料集 (一) 1975
- 第 24 輯 江西蘇区文学運動資料集 1976
- 第 25 輯 仁井田陸博士輯北京工商ギルド資料集 (二) 1976
- 第 26 輯 民国以来人名字号別索引 1977
- 第 27 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事  
総目 (一) 1978
- 第 28 輯 仁井田陸博士輯北京工商ギルド資料集 (三) 1978
- 第 29 輯 中国左翼文芸理論における翻訳・引用文献目録 1978
- 第 30 輯 仁井田陸博士輯北京工商ギルド資料集 (四) 1979
- 第 31 輯 儀禮疏攷正 (上) 1979
- 第 32 輯 儀禮疏攷正 (下) 1979
- 第 33 輯 仁井田陸博士輯北京工商ギルド資料集 (五) 1980
- 第 34 輯 小説月報 (1920-1931) 総目録 1980
- 第 35 輯 コミンテルン定期刊行物中国関係論説・記事索引 1981
- 第 36 輯 魯迅文言語彙索引 1981
- 第 37 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事  
総目 (二) 1981
- 第 38 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事  
総目 (三) 1982
- 第 39 輯 仁井田陸博士輯北京工商ギルド資料集 (六) 1983
- 第 40 輯 東洋文化研究所所蔵中国土地文書目録・解説 (上) 1983

第 41 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事  
総目 (四) 1983

第 42 輯 校合本 大越史記全書 (上) 1984

別 輯 1 東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録<sup>書名</sup>索引・京都大学人文  
科学研究所漢籍分類目録<sup>書名</sup>通検合併 四角號碼検字表 1975

別 輯 2 海外所在中国絵画目録 (アメリカ・カナダ編) 1977

別 輯 3 海外所在中国絵画目録 (東南アジア・ヨーロッパ編) 1981

別 輯 4 日本所在中国絵画目録 (寺院編) 1982

別 輯 5 LABRANG 李安宅の調査報告 1982

別 輯 6 日本所在中国絵画目録 (博物館編) 1982

別 輯 7 日本所在中国絵画目録 (個人蒐集編) 1983

別 輯 8 中国経済関係雑誌記事総目録 (一) 1983

別 輯 9 孟郊詩索引 (上) 1984

#### 4. 「センター通信」の編集, 刊行

センターの活動を広く利用者に知らせるとともに, 利用者の意見を載せる場として, 「センター通信」(年 1~2 回, 不定期) を編集, 刊行し, 昭和 59 年 3 月現在, 第 24 号に達している。

#### 5. 国内漢籍所在調査

全国漢籍総合目録作成の準備作業として, 各地に未整理のまま散在する漢籍の所在を調査し, カードを作る仕事を昭和 46 年度の予備調査開始以来継続推進してきた。昭和 59 年 3 月現在, すでに八戸市立図書館・長崎大学附属図書館経済学部分館・熊本大学附属図書館落合文庫・新潟県立新潟図書館・新発田市立図書館・愛媛大学附属図書館の所蔵漢籍について分類目録を作成し, 漢籍所在調査報告書計 3 冊を刊行したほか, 宮城県図書館・千葉県



## V 東洋学文献センター

立中央図書館・新潟大学附属図書館等数機関の所在調査を行なった。

### 6. 東洋文化研究所未収漢籍のマイクロ蒐集

『東洋文化研究所漢籍分類目録』編纂の過程で、20 数万冊の蔵書の構成に若干の片寄りがあり、特に経部・集部・叢書部に補充すべき書物の少なくないことが明らかとなったので、昭和 50 年度以降、他機関所蔵で本研究所の未収書をマイクロフィルムで補充する計画を推進し、すでに京都大学人文科学研究所所蔵漢籍叢書等、ネガ、ポジあわせて 1,500 余リールを収蔵するに至った。

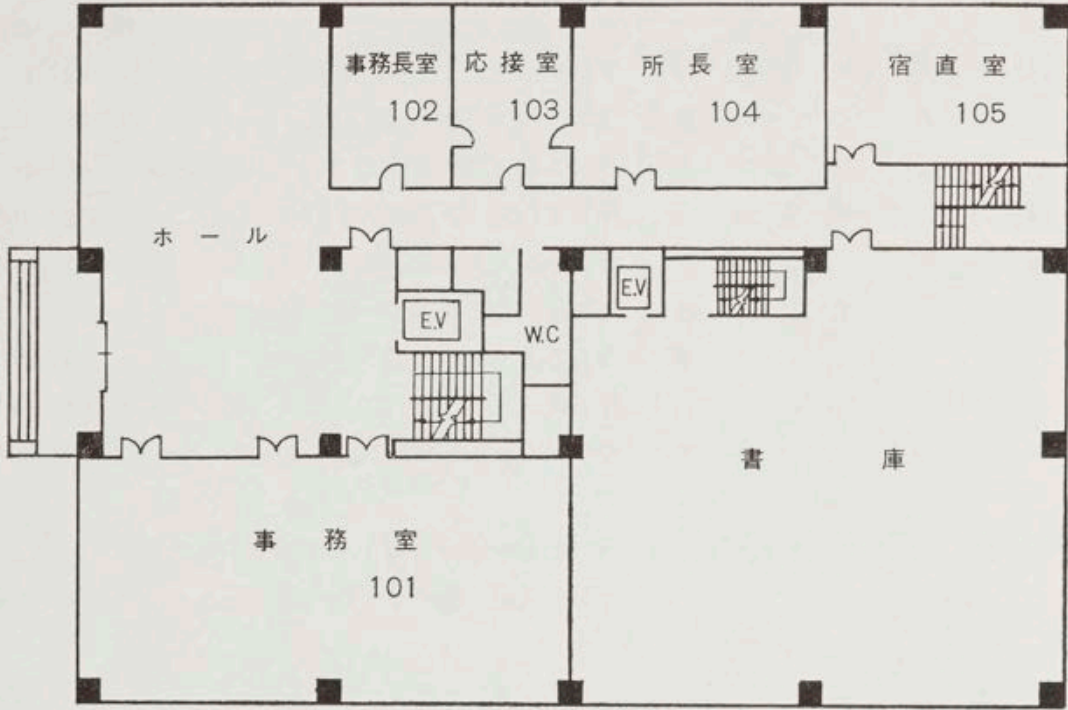
### 7. 漢籍担当職員講習会および漢籍整理長期研修

昭和 47 年から全国各地の漢籍担当職員に対し、文部省と共催で漢籍目録実務の講習を実施し、56 年度までに計 10 回、受講者は 105 機関、のべ 224 人に達し終了した。

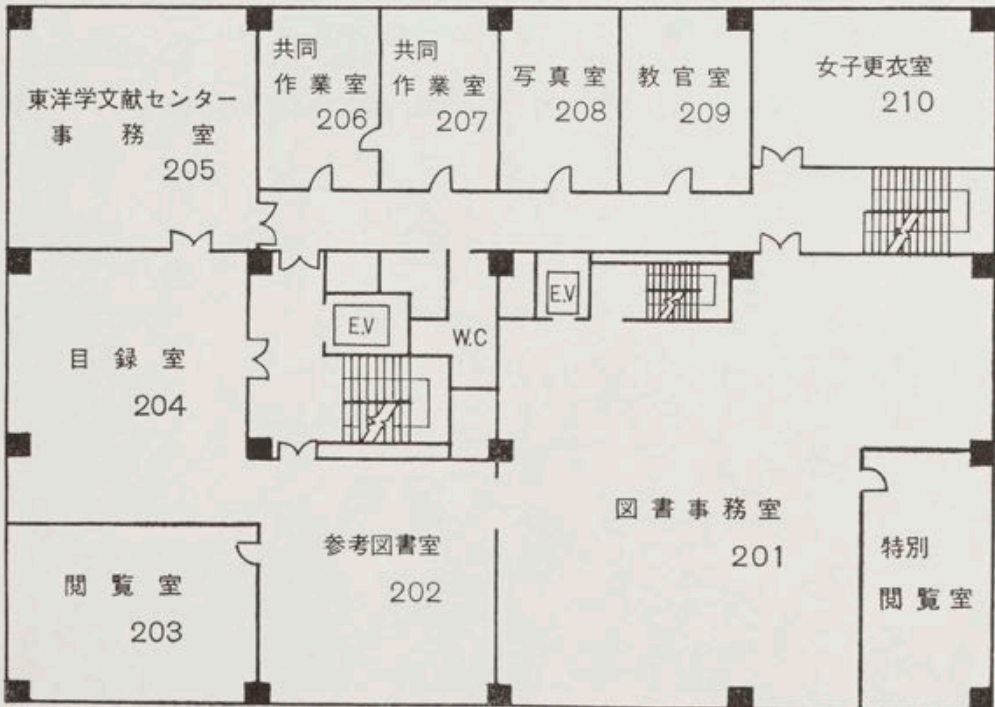
なお昭和 55 年度からは、諸大学図書館の漢籍整理担当職員に対して、講義と実習の両面にわたる個別指導を行ない、漢籍整理の専門知識と技能の向上をめざす長期研修を実施し、すでに 10 機関 12 名の受講者が参加した。

# 建物配置図

## 1階

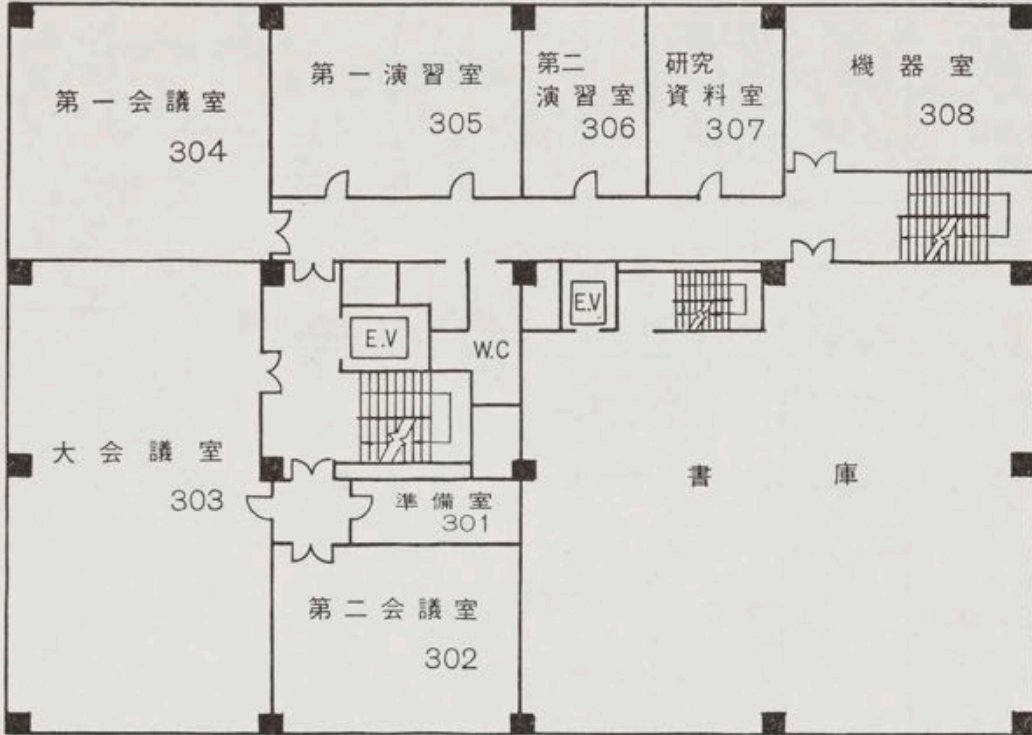


## 2階

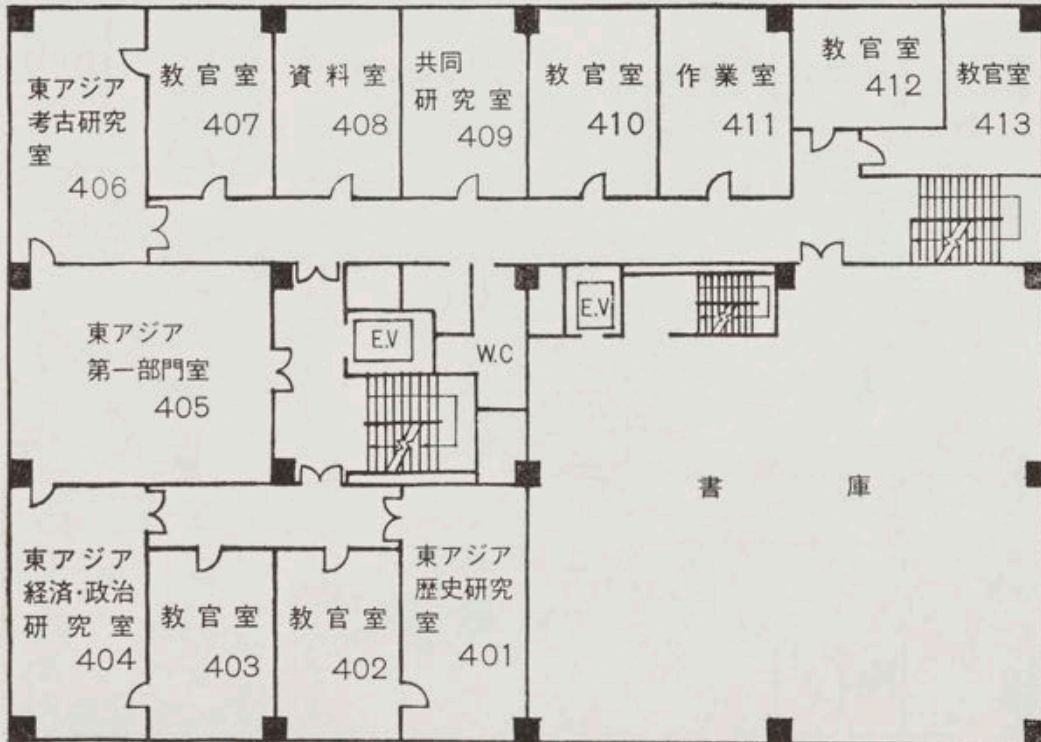




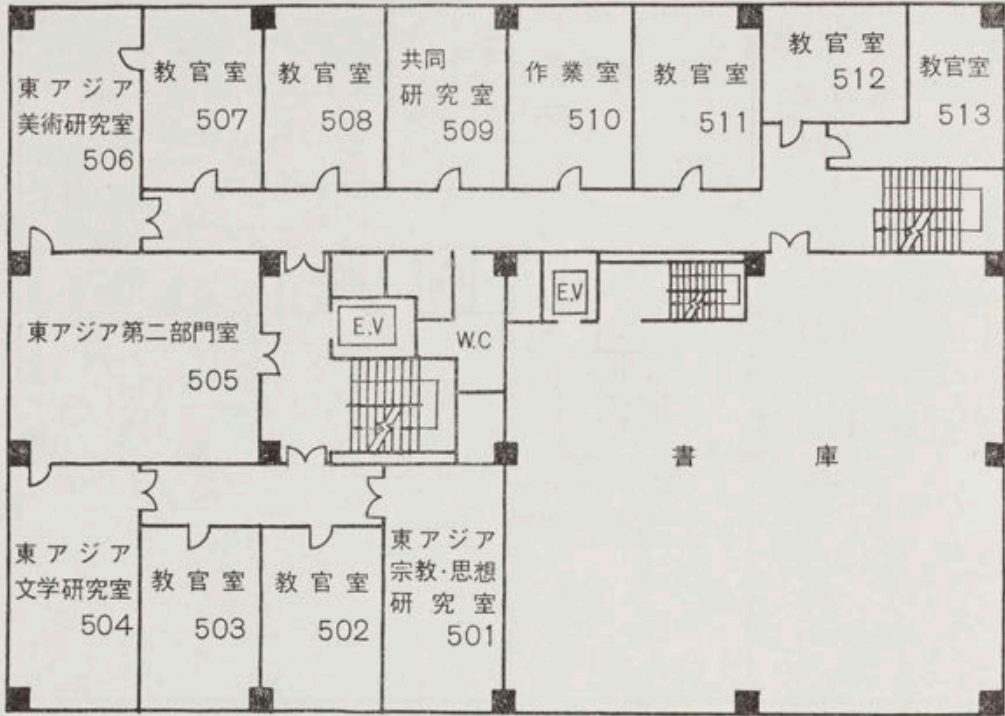
3階



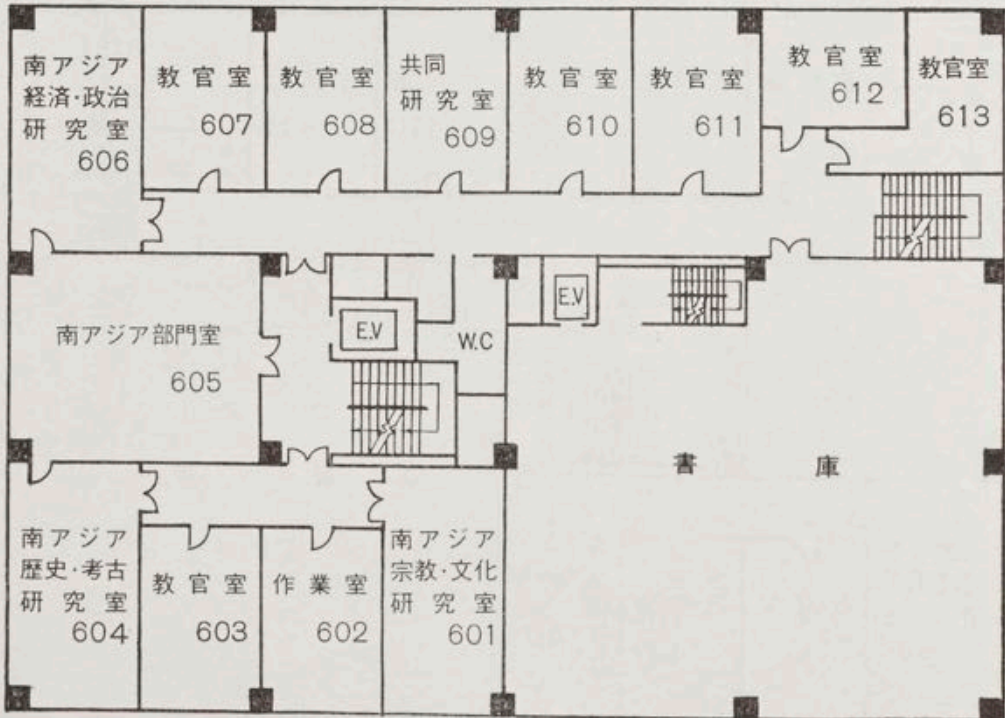
4階



5階

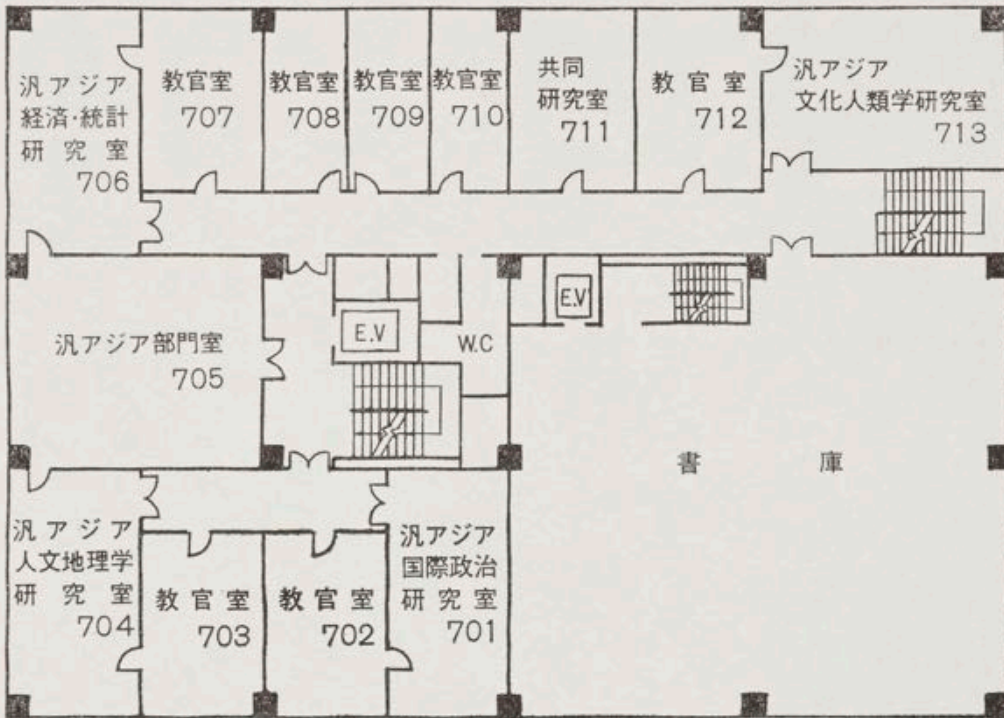


6階

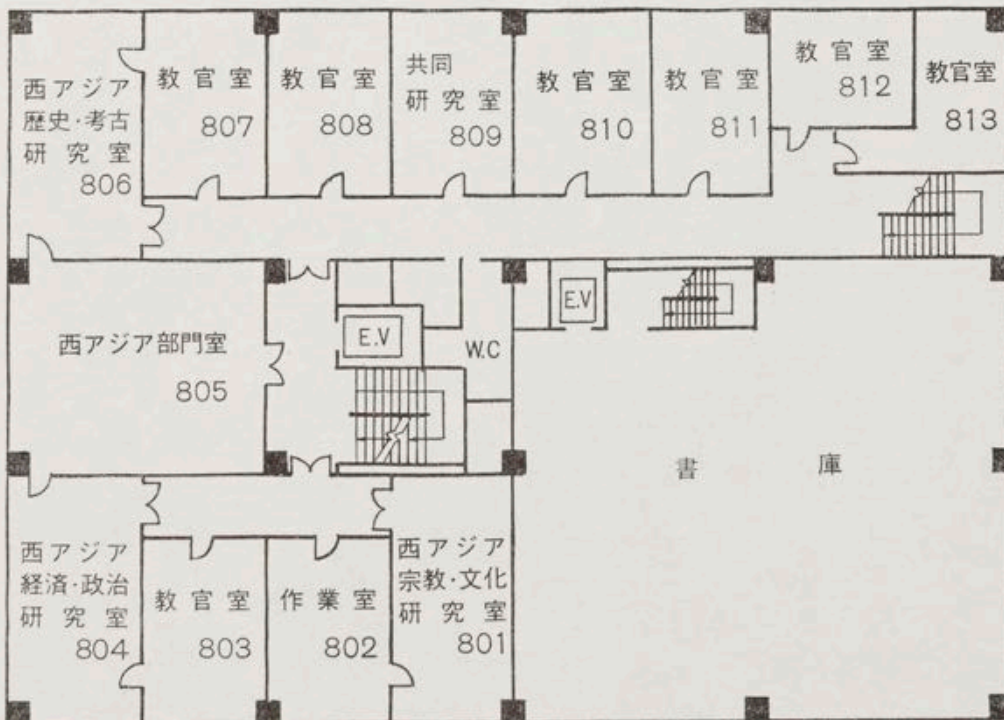




7階



8階







*Institute of Oriental Culture*  
*University of Tokyo*

*The Institute of Oriental Culture, one of fourteen research institutes of the University of Tokyo, is a distinguished center of Asian studies in Japan. The Institute is characterized by interdisciplinary studies. The research staff is presently composed of thirty-one specialists in various disciplines in the humanities and social sciences, such as history, literature, religious studies, art, archaeology, political science, law, economics, human geography and cultural anthropology. The following geographical areas are covered: East Asia, Northeast Asia, South Asia, Southeast Asia and West Asia. Research emphasizes the analysis of literature as well as field surveys and is conducted in close contact with scholars of related fields, including local scholars in different regions in Asia.*

*The professors and associate professors holding appointments in the Institute form a permanent committee which handles Institute affairs, including the appointment of research staff. This committee is chaired by the Director. The Institute's faculty also teach postgraduate students in various departments of the University of Tokyo. In addition, the Institute staff includes a number of research associates, librarians and administrative personnel. Since 1966 the Documentation Center has been affiliated with the Institute and is run by experts to provide reference services relating both to Asian classics and modern publications.*

*Director : Professor ONOE Kanehide*

*Address: 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113, JAPAN*

*Telephone: (03)812-2111 Ext. 5830, 5831 (Director's office)*

*Cable Address: TODAITOYO TOKYO*

## RESEARCH STAFF

### PROFESSORS

- FUKAI Shinji** D. Lit. (Tokyo) History of Persian art
- IKEDA On** Ancient and medieval history of China; Cultural inter-course in premodern Asia
- KAMATA Shigeo** D. Lit. (Tokyo) Buddhism in China, Korea and Japan
- MATSUI Toru** Modern economic history of India; Colonialism and nationalism in South and Southeast Asia
- MATSUMARU Michio** Ancient history of China; Yin and Zhou epigraphy
- NAKANE Chie** Social anthropology; Social organization in India, Tibet and Japan
- ONO Morio** D. Sc. (Tokyo) Human geography; Socio-economic structure of villages in Iran and Afghanistan
- ONOE Kanehide** Chinese literature; Novels and folk tales
- SEKI Hiroharu** Political science; Peace research; Asian international politics
- TANAKA Issei** D. Lit. (Tokyo) Regional theatre in Song, Yuan, Ming and Qing China
- TODA Teisuke** History of art; Painting in Song and Yuan China
- TOMOSUGI Takashi** D. Lit. (Rikkyo) Human geography; Economic and symbolic studies of villages and towns in Asia
- YAMADA Saburo** D. Agr. (Tokyo) Economic and agricultural development in Asia



**YAMAZAKI Toshio** Ancient history of India; Hindu law

### ASSOCIATE PROFESSORS

**HACHIYA Kunio** Philosophy and thought in Wei, Jin, and Southern and Northern Dynasties China

**HAMASHITA Takeshi** Modern economic history of China; Financial relations between modern and traditional societies

**HARA Yonosuke** D. Agr. (Tokyo) Economic development theory; Southeast Asian economies

**INOUCHI Takashi** Ph. D. (M. I. T.) Political science; Comparative and international politics and political economy

**KANO Hiroyoshi** Rural economy and economic history of Indonesia

**MATSUTANI Toshio** Anthropology and archaeology; Near Eastern prehistory

**MIYAJIMA Hiroshi** Modern history of Korea

**SUZUKI Tadashi** LL. D. (Tokyo) Political science and Ottoman studies; Social and political history of the Ottoman Empire

**YANAGISAWA Haruka** Modern economic history of India; Rural society in South India

### RESEARCH ASSOCIATES

**FUKUI Seiichi** D. Agr. (Kyoto) Agricultural economics

**KATO Hiroshi** D. Ec. (Hitotsubashi) Economic history of modern Egypt

**KAWASAKI Yuzo** Chinese society in Southeast Asia

**KUBO Toru** Socio-economic history of modern China

**SHIMIZU Hiromu** Social anthropology; Philippine studies

**TAKENAKA Chiharu** Modern Indian politics

**TANI Toyonobu** Archaeology of Northeastern Asia

**UEDA Makoto** Socio-economic history of Ming and Qing China

## DOCUMENTATION CENTER

RESEARCH ASSOCIATE

**YAMANOUCHI Masahiko**

## CURRENT RESEARCH PROJECTS

In addition to individual research, research projects are regularly conducted. Each project, which involves one or more working groups, normally lasts several years and may involve occasional revisions and changes in subjects and participants. Working groups invite the participation of scholars in related fields from different faculties of the University of Tokyo as well as from other universities. A large number of scholars are thus affiliated with the Institute. The following projects are currently being carried out:

1. State structure and bureaucracy in ancient China.
2. Foreign policy and its domestic foundations in Asian countries; comparative analysis of the relationships between the external actions of states and their internal sources.
3. Comparative analysis of economic and social development in China, Korea, Indonesia, Thailand and Iran.
4. Comparative studies of minorities in China, Malaysia and the Philippines.



5. Social change and social consciousness in 19th-20th century Southern Asia.
6. Asia versus Europe: world-view in modern history.
7. Survey of public and private documents in China and Korea.
8. Buddhism, Taoism and Confucianism and their interaction in China and Korea.
9. Location and classification of Chinese paintings kept in various institutions in Japan and abroad.
10. Traditional Chinese theatre in Southern China and Southeast Asia.
11. The Chinese novel in the 1930s.
12. Islam and Muslim civilization in Egypt, Iran, Afghanistan and India.
13. The art history and prehistory of West Asia; Ancient cultural contacts between West Asia and Japan.

## LIBRARY

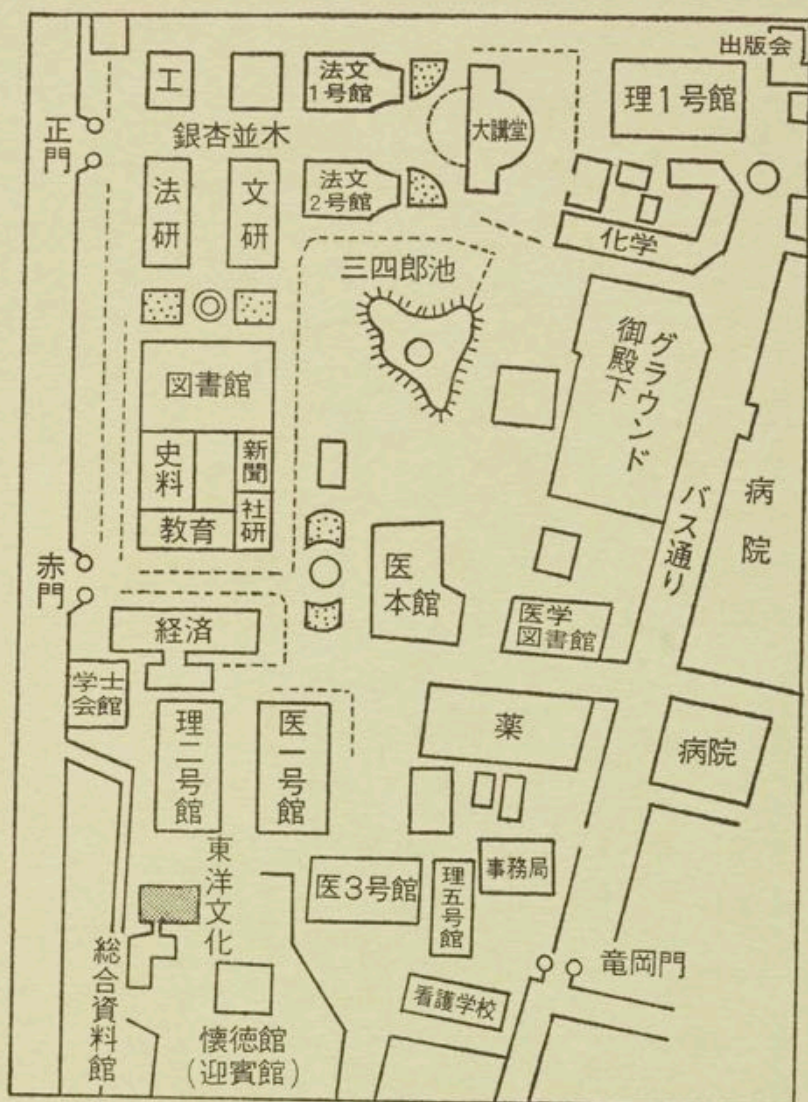
The Library of the Institute has holdings of more than 350,000 titles, including one of the best extant collections of Chinese source materials. Among the important components are: the Tokai Zosho-ro Collection (Chinese classics), the Oki Collection (Chinese law), the Niida Collection (Chinese law), the Matsumoto Collection (East Asian diplomacy), the Kiyono Collection (anthropology and archaeology), the Nagasawa Collection (Chinese drama and novel), and the Kuraishi Collection (Chinese classics).

Collections relating to other parts of Asia, including those in local languages, have also been recently augmented. The Library has long been one of the three major Japanese libraries for Oriental scholarship, and each year approximately 7,000 persons, including Orientalists from abroad, make use of its facilities.

## THE DOCUMENTATION CENTER FOR ASIAN STUDIES

The main purpose of the Center is to provide various documentation services to scholars and librarians at home and abroad in the field of Asian Studies, and thereby contribute to the subject's further advancement. The Center publishes two to three volumes in its *Asian Studies Documentation Series* a year in the following areas: Documents in Chinese and Korean Studies; Political and Legal Documents of Pre-1949 China; Theatrical and Literary Documents of Pre-1949 China. So far, 51 volumes have been published in this series. These publications are distributed to 314 universities, colleges and research institutions in Japan and 120 such institutions abroad.





東京大学東洋文化研究所

〒113 東京都文京区本郷 7-3-1

電話 (03) 812-2111 内線 5830, 5831

(59.5.1 三秀舎)